

全社一丸となってカイゼン活動に取り組むと共に、最新のデジタル技術やデータを駆使して東光高岳のDX(デジタルトランスフォーメーション)を加速しています。

東光高岳が目指す「サステナブル社会」の実現に向けて、以前から取り組んでいるカイゼン活動とデジタル化をより強力に推進すると共に、最新のデジタル技術やデータを駆使してイノベーションの創出にグループ大で取り組んでいます。

2021年9月に「東光高岳デジタルトランスフォーメーション戦略(TKTK-DX)」を策定・公表し、2022年1月には、TKTK-DXのビジョンや基本戦略、推進体制等が評価され、経済産業省が定める「DX認定事業者」*に選定されました。

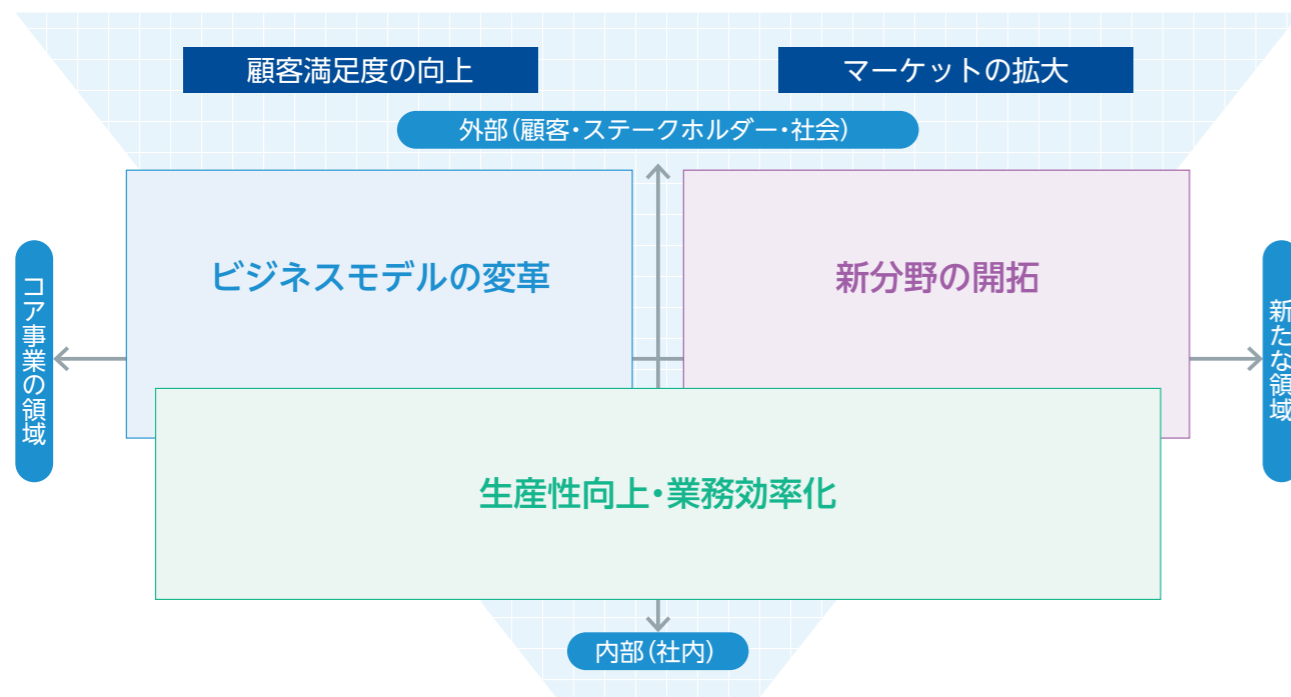
*DX認定事業者とは、デジタル技術による社会及び競争環境の変化を踏まえ、ビジョンの策定や戦略・体制を整備し、DX推進の準備ができている事業者を意味する。



DX ビジョン

カイゼンとデジタル化により業務効率とスピードを飛躍的に向上させると共に、強みである電力技術、計測・伝送・制御技術と最新のデジタル技術やデータを組み合わせたDXを推進することで、ビジネスモデルの変革と新たな価値創造に挑戦し、お客様のエネルギー利用の高度化・多様化やサステナブル社会の実現をリードする。

DX ビジョンの実現に向けた基本戦略



「ビジネスモデルの変革」では、バリューチェーンのデジタル化として、仕様検討から設計、営業、製造、出荷、メンテナンスまでのデータ連携に取り組み、コンフィグレータによる見積・設計の自動化、3Dでの設計・解析などを推進しています。

「新分野の開拓」では、2021年度に活動を開始したアズビル株式会社との事業コンセプト「DX-EGA」において、株式会社三井住友銀行のCO₂排出量算定・削減支援クラウドサービス「Susutana(サスタナ)」の共同開発に参加し、2022年5月に稼働しています。

「生産性向上・業務効率化」では、RPAなどによる業務の自動化や各種指標の自動作成・見える化を推進しています。また、データ分析による経営指標の高度な予測等を可能とし、データドリブンで迅速な意思決定を目指しています。

また、2023年6月に「人財育成センター」を設置し、既存事業の磨きこみ・深化させる人財、新規領域で新たな付加価値を創造できる人財の育成に取り組んでいます。

TOPICS 配電盤のデジタルツイン構築

配電盤の生産能力を飛躍的に向上させる活動として3D化に取り組んでおります。3Dモデルの中で配線まで再現する「デジタルツイン」を構築することで、実際に使用する電線の長さや本数、配線順序や配線ルートなどのデータを、製造現場で必要な情報として連携できるようになりました。

その結果、作業をしながら切り出していた電線を事前に部品として準備することが可能となり、作業の効率化や電線在庫の最小化に大いに寄与します。また、配線順序や配線ルートのデータを活用した配線指示により、配線の際に回路図を見たり配線手順を考える必要がなくなりスピーディーな作業を実現します。

これからも、お客様の期待を超えるS+QCD*の提供と付加価値の創造に挑戦してまいります。

*Safety(安全・安心確保)、Quality(高品質)、Cost(原価低減・生産性向上)、Delivery(短納期)

